

「富山県営立山砂防施設群」が 土木学会選奨土木遺産に認定されました



令和7年度土木学会選奨土木遺産

富山県営立山砂防施設群は、常願寺川水系に明治末期～大正期に内務省に先駆けて築造された空石積みの施設であり、当時の砂防技術を今に伝える貴重な土木遺産です。

所在地：富山県富山市有峰地内

竣工年：1906(明治39年)～1925年(大正14年)

土木学会選奨土木遺産とは

土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、公益社団法人土木学会が平成12年に設立した認定制度です。

推薦および一般公募により、年間20件程度が選出されており、「富山県営立山砂防施設群」の認定は、富山県内では、黒部ダムや東山円筒分水槽（魚津市）に続き7件目です。